

みんなが集える木の助産院

完成現場報告

袋井市／『お茶畑助産院』

文・写真／ココロポ 山崎健治



教室やイベントを行う多目的広間。南側、中庭に向けて大きな窓が光を集め、天井に配置した垂木ルーバーの陰影が特徴的。床板は栗材、その他は天竜の杉と桧で造られている。



昨年の春、お茶畑の広がる景色の中に出産施設を伴った助産院が完成しました。12年以上前から助産院を開業し、産前産後ケアをはじめとした自宅出産のサポートを行ってきた院長の高橋美穂さんの想いが形になり、木に包まれた助産院が誕生しました。助産師として多くの経験を積む中、出産はトータルサポートが大切と考え、安心して出産出来る施設の他に、ママになる学びの場や各種イベントを行うスペースを持つことも重要だと考えていました。また、育児に疲れたりちょっとした不安がある時、赤ちゃんと一緒にゆっくり出来る場所を提供したい。お母さん同士のつながりや、助産師としてのアドバイスが出来る居場所をつくり、安心してママに、そして、ママになった喜びを感じてもらえる施設にしたいと願っていました。年々膨らむ高橋さんの夢。助産師としての想いと、多くの女性や助産師仲間からの要望も大きくなり、いよ

いよ行動を起こさねばと、まずは想いを共有出来る建築家探しを行ったと聞きました。病院とは違い、あくまで助産院は家の延長と考える高橋さんは、自然と木の助産院をイメージし、3社でのプロポーザル選定後、当社を採用していただきました。基本設計から実施設計、土地の測量や農地転用申請など、計画が進んでいく中、高橋さんの胸中は少し複雑な気持ちだったと思います。夢の実現に向けて進んでいくのはとても嬉しい反面、大きな施設を構える事で、これからの運営や建築費についての不安も膨らんでいったと思います。銀行との打合せ、応援してくれる仲間との相談…話せば話すほど不安も増す中、助産院にも補助金が出るという情報ももらい、一筋の光が見えてきました。この補助金は静岡県地域医療課からの事前ヒアリングで知り、様々な医療や研究を対象にした制度でした。今回は分娩施設を伴う建築ということで対象となり応募しました。補助金はとても嬉しい事ですが、私たち設計者にとっては高いハードルにもなりました。ちょうど同じタイミングで保育園の設計を進めている最中もあつたので、補助金の手続きや資料づくりの事は理解していました。詳細な設計に加え、設計積算、設備、構造計算書の作成等、設計仲間にも協力してもらいながら、補助金審査を無事通過し、指名入札の形で施工者が決定しました。



ハイサイド窓から光が差し込む分娩室。神秘的な生命の誕生をイメージして窓の大きさや高さなどを検討した。



畳下のスペースを利用して引出し収納をつくった。使いやすく色々な備品が収納出来て便利な場所。



分娩室から使える酸素ボンベは反対側の脱衣室の収納の中に。いざというときに必要だが、見えていると不安を与えるので隠した。



道路からの外観。自宅までの進入路は傾斜があり、建物の高さや基礎の設計に苦労した。板塀が程よく道路からの視線を隠し、室内は開放的で落ち着きがある。



玄関ポーチから広間までつながった回廊式のデッキ。子供たちの絶好の遊び場で、競争したり追い掛けっこをしたりと楽しい場所になっている。



中庭に面して広間と玄関に大きなガラスが配置されている。時間の変化で日差しが変わり、明るくて暖かい室内が心地よい。グランドカバーのタマリユウの中に緑台のデッキをつくり、イベントや子供たちの遊び場として活躍している。

開放的な明るさと神秘的な光

プランの大きな特徴は口の字型の中庭プラン、玄関を境に南に面した開放的なスペースを各種教室やイベントの出来るホールとし、静かな北側と東側ゾーンに診察室、分娩室、入所室を配置しました。今回の助産院は、診察、分娩、入院に加え、一般の方にもスペースを開放し、教室、イベントを行うことをコンセプトにしています。それぞれの動線や視線、活動的な明るさや落ち着いた暗さ、時間の変化での光の動きなども考慮して部屋の配置や窓の大きさなどを決めていきました。教室、イベントホールは道路側にも中庭側にも大きな窓を配置し、活動的な明るさ、暖かさ、空間の広がりを演出しました。また、天井を構成している垂木にも意匠性を持たせ、リズムカルな陰影をつくりました。広がる視線、和気あいあいとした雰囲気、空間を包み、人と人をつなげる心地よい居場所が出来たと思います。中庭にはタマリユウを敷き詰め、子供たちが遊べる緑台デッキをつくりました。イベントでは緑台で演奏したり、出産を待つ家族は静かな時間を過ごしたりと、それぞれの過ごし方で利用していただいています。中庭にはいづれ一本の木を植えたい、木を通して季節を楽しみ、またこの助産院のシンボルとして、みんなの拠り所になる

場所にもしていきたいと高橋さんは話していました。室内に入るとわかりにくいですが、今回の敷地は道路から緩い傾斜地になっており、設計段階では基礎の設計に苦労しました。道路から見ると目隠しの板塀でカモフラージュしていますが、道路と建物の床は約2m近くの高低差があります。玄関までのアプローチ、緊急時の搬送など、高低差をクリアするには苦労しましたが、回廊式のベランダからの眺望もよく、また、道路との関係も、ほどよく離れ落ち着いた内部空間が出来ました。現在はまだ計画中ですが、アプローチ周辺にたくさん緑を植え、季節感や助産院に来た方の楽しみにつながればと考えています。

開放的な南側ゾーンに比べ、北側の診察室、分娩室、入所室は落ち着いた空間としています。特に分娩室は神聖な場所、ハイサイドから差し込む光も時間や季節で変化し、命の誕生をコンセプトにして高さや大きさを計画しました。分娩室は一段上がった畳敷きとし、助産師としての経験、出産の経験からお互い無理のないお産が出来るようにと考えたスタイルです。畳の下にはシートやお産に必要な備品の収納、小さな窓には酸素ボンベも収納し、不安を与えない工夫をしています。また、分娩室近くに浴室を配置したり、出産直後の沐浴設備など、お産に必要な備えも万全です。



廊下の一部に設置した待合のベンチ。診察前や出産を待っている家族が利用している。壁に写真などを飾ってちょっとしたギャラリーも検討中。

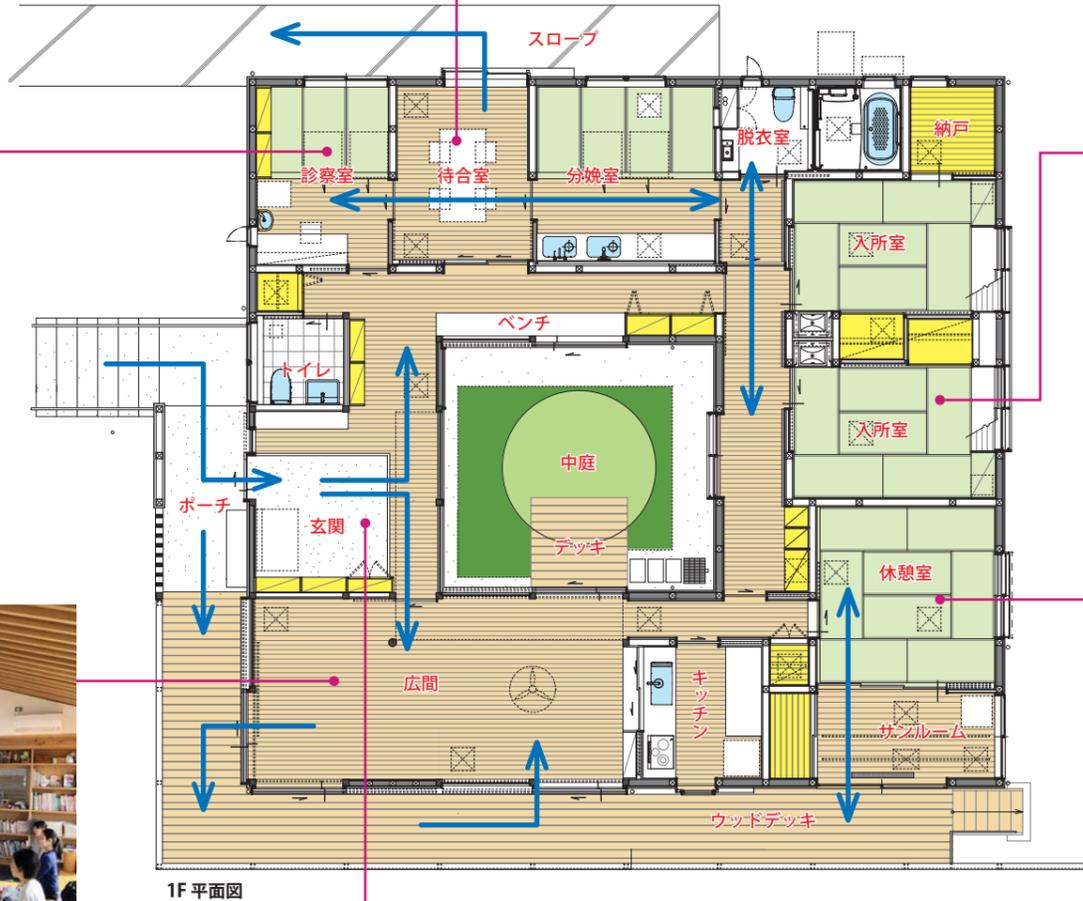
少し高めの段差で畳スペースをつくった診察室。ベットの高さを参考に、診察するのにちょうどよい高さを考えた。



中庭に向けた大きなガラス窓が特徴の広間スペース。中庭を通して視線は交差するが、どこか守られた安心感のある空間。



定期的に行われているピラティス教室。広いスペースを使ってゆったりと行われている。



1F 平面図

6畳+板の間の入所室には洗面と洋服収納、冷蔵庫も完備している。ママだけでなく、子供やパパも一緒に宿泊出来る広さを確保した。



休憩室兼教室に使われている8畳の和室。今はマッサージや体操などが行われ、出産が重なった時は宿泊室としても利用予定。

土間スペースを広く取り、ちょっとした接客も出来る玄関とした。中庭からの光がさんさんと入り込み、明るく気持ちの良いスペース。

中庭を中心とした口の字型プラン

景色もよく恵まれた敷地での設計ですが、助産院という用途からあえて中庭を囲んだ静かな雰囲気提案しました。中庭は光を集めたり、煙突効果で風道をつくってくれる優れた形状、たくさんの人が行き交う施設として、動線や視線も考えたプランです。



仕様内容

敷地面積	507.57㎡
建築面積	211.15㎡
延床面積	171.42㎡
構法	在来工法平屋建て
構造材	柱・梁：杉材・松材 含水率20%以下(静岡県産材)
屋根	ガルバリウム鋼板縦ハゼ葺き
軒天	木毛セメント板TSボード15mm、杉相ジャクリ板12mm
外壁	オリジナル左官仕上げ(マサ土掻き落とし)、杉赤本実板縦貼
外部建具	木製オリジナル建具 タモ、ペアガラス アルミサッシ(ペアガラス)
天井仕上	杉本実目透かし張り、石膏ボード12.5mm下地、ビニールクロス貼り、木毛セメント板貼り20mm
間仕切壁	石膏ボード12.5mm貼下地、漆喰仕上げ、珪藻土仕上げ、ビニールクロス貼り
床	構造用合板28mm下地、栗本実板張り15mm
内部建具	木製オリジナル建具

今回助産院の設計をさせていただく中で、院長の高橋さんと打合わせを重ねながら、動線、利用者の使いやすさについても考えていきました。診察室↓分娩室↓入所室の移動しやすくプライバシーのある動線、分娩室と浴室、トイレの位置、分娩室から緊急時の搬送経路など、様々なシュチュエーションをイメージして計画しました。また、入院時の食事や洗濯のスペース、入院中家族も一緒に宿泊出来る広さや居場所なども取り入れました。入所室には洗面や洋服収納、小さな冷蔵庫も完備、広間には大きなキッチンも設け、体にやさしい料理にも力を入れています。オープンからすでに10人近くの新しい命が誕生したと聞きました。様々な使われ方の中で変化していく事もあると思いますが、心地よく、みんなに愛される木の助産院になれば嬉しく思います。

お産をテーマに
様々な人が行き交う助産院

産婦人科医院と助産院って何が違うの？
出産は病院でするものではないか？ と思ってしまう方も多いと思います。今では産婦人科医院や病院で出産する方が多いと思いますが、医療行為を必要としない自然分娩は、助産院にいる国家資格を持った助産師が検診から出産、産後までをフォローする事ができます。産婦人科医院でも出産までの基本的なフォローは同じですが、院長の高橋さんの考える助産院は、お産や産前産後ケアはもちろん、ママになるまで、ママになってもずっと寄り添っていきける助産院の姿でした。お産は女性の産む力と赤ちゃんの生まれてくる力を信じ、その力を最大限に引き出して行く事が大切、そのためにはママになる準備、勉強や体づくりを行える場所が必要で、妊娠前、出産後もみんなが集える心地よい居場所が助産院には必要だと考えていました。元々お寺や近くのスペースを借りてヨガやピラティス、勉強会などを行っていましたが、助産院と併設した場所で活動の内容を広げ、たくさんの人に利用してもらえるスペースを持ちたいと考えていました。まだオープンして9ヶ月程ですが、すでにたくさんの教室やイベントが組まれ、ママだけでなく色々な方が利用しているようです。



「ママになるまで ママになっても ずっと寄り添う助産院」

「あなたの助産師さんは誰ですか？」

助産師になって3年目の5月5日の国際助産師の日。私は、THE BOOMの「風になりたい」を歌いながら、サンバのリズムに乗って渋谷の街を練り歩くパレード「SAMBA de 助産婦(産婆)」のパレード隊長をしていました。

曲の合間に「私たちは助産婦です。」「あなたの助産婦さんは誰ですか？」と問いかけると、街行く人が私たちにビックリして足を止め「助産師って何？」とざわついていたのを記憶しています。情熱の赤色を身に纏い、熱い想いの助産婦が全国から集結し、助産師を応援するママ達と一緒にいったパレードは、人々の脳裏に「助産師」の3文字を刻んでいきました。

当時、都内の総合病院に勤務していた私は、「誰が助産師で誰が看護師かわからない」と何人も産婦さんから言われました。確かに白衣にはその違いがわかるものではなく、誰が助産師なのかかわからない状況でした。助産師という職業が周知されていない状況でしたが、水面下では日本に男性助産師を導入しようという動きが始まっていて、男性助産師の導入を食い止めるために、まず助産師を知ってもらわないといけない状況に、助産師の多くは焦燥感を抱いていました。

「ようこそ、木の香りに包まれた助産院へ」

近年、医療を必要としないお産は減る一方で、助産師自身も自然なお産を知らない時代になってきました。この問題を解決するには、20年前の助産師の存在を周知させる運動では生ぬるく、『助産師がもっと開業すること』に尽きると考えています。妊娠中から産後もずっと継続的にケアを提供できる助産師が増えることがママにとっても助産師にとっても必要であり、自然なお産が増えることに繋がると思うからです。

13年前、自宅出産お手伝いをする助産院という形で開業しましたが、いつか「みんなで集える場」「ママ達の第二の故郷となる場」が欲しいとずっと思い続けてきました。すると、末っ子が小学生にあがるタイミングで助産院を建てる話が浮上し、自分の思いが一気に形になりました。長い時間を要しましたが、やっと箱が出来ました。女性の産む力と赤ちゃんの産まれてくる力。元々備わっているこの力を最大限に引き出すお産が助産院のお産です。当院では、それに加えて第二故郷となり、ママたちの癒しの場として愛される場をママ達と一緒につくっていきたくと思っています。



「元気に産まれておいで」お産は怖いものではなく、むしろ楽しみに迎えたい。産まれてくることを楽しみに待つふたり。



出産した直後の女性は菩薩様のような穏やかで優しい眼差し。お産の度に、ついみとれてしまう。

利用者を楽しませてくれる工夫と 快適の仕組み

間取りや素材など、心地よい建築の要素は様々ですが、ちょっとした広がりや細部の工夫、面白い仕掛けなどで快適性や楽しさも変わってきます。利用者目線の気遣いや働きやすい工夫など、お茶畑助産院はアイデアの詰まった助産院です。



キッチンと広間の間に設けた絵本いっぱいの本棚。季節やイベントに合わせておすすめ本を飾ったり、ママに読んでもらいたい本などが紹介されている。



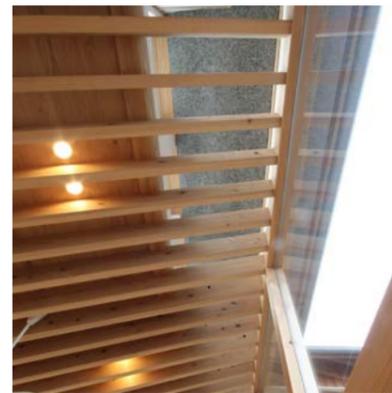
利用者みんなが使えるトイレ。広く綺麗な雰囲気トイレは、赤ちゃんと一緒に入ったり、ちょっとしたお化粧直しに使ったり。



玄関ポーチに立つとデッキを通して視界が広がり、通り抜ける風が気持ちいい。デッキは思わず靴を脱いで上がりがたくなるような雰囲気。



休憩室に隣接したサンルーム。出産やその後の宿泊の際はたくさんの洗い物が出ると聞き、日当たりの良い縁側に、洗濯機と物干しパイプを設置。



広間と玄関天井の一部に設けたハイサイド窓。採光と通風の他、火災時の排煙窓としての機能もあわせ持つ。



分娩室近くに設けたトイレと浴室。陣痛時に利用することもあると聞き、配置や動線を考えてプランした。手摺と柵も、ひと工夫。



お茶畑助産院 院長：高橋 美穂

TEL 0538-31-2380 FAX 0538-31-2381 携帯 090-8457-5480

静岡県袋井市豊沢2158-3(駐車場20台あり)

診療時間/事前予約制

平日 午前9:00~12:00 午後13:00~17:00

土曜 午前9:00~12:00

休診日/日・祝(乳腺炎などの緊急時にご相談ください)

夢をカタチに 設計者としての役割とは

今回の計画を通して、依頼者の夢を実現するために様々な設計者としての役割がある事を再認識しました。住宅設計では主に施主の要望に対してプランや仕様、コストなどについて提案していきますが、今回のような施設、特に補助金を利用した建築では、全体の計画はもちろん、補助金に合わせたスケジュール管理、行政とのやり取りや審査書類作成、設計積算や施工者決定の入札など、様々な場面で設計者の判断や経験が計画を左右します。施主が公共団体や法人などの場合、また今回のように個人の場合などでその役割は違ってきますが、設計者の考えによって全く違った建物になったり、判断を間違えると建築できないケースにもなりかねません。私たちも経験の多い方ではありませんが、特に木でつくる施設は一段と高いハードルがあると思います。木材の調達、品質管理、施工者の技術経験や力量など、計画の早い段階でコンサルティングする必要があり、多くの場合設計者がその役割を担うこととなります。依頼者の夢の実現に向けて良い建物を設計して行くことはもちろん、豊富な知識と経験を身につけ、様々な依頼に対して最良の提案と流れを提供できるように積み重ねていきたいと思っています。